あぁ、結婚！

―婚活日記―

第 31 回

黒田長宏

＜2024年5月9日＞

58号で提出しようと思っていたのだが、精子提供の逆説のような案が閃いて、行動もしたので、私のような急性心筋梗塞で命拾いした者は、3ヶ月の間に何があるかわからない、待っていられないと思い、今回は再提出が多くなって申し訳ないのだが、やる気がないよりは悪くないと思い、（やる気がない時期も悪くはないのかも知れないが）

これ以下の部分を付記させていただく。

＜2024年5月2日＞

思わぬ急性心筋梗塞発症事件から3か月が経過し、出直しせねばならない。そのため、早めに57号の原稿を提出し、58号分の出来事に向けて再稼働である。（原発のせいで嫌なイメージの単語になってしまったが。）

＜5 月 3 日＞

58号も記述の日が空くのかなと半ば忘れていたところ、茨城新聞に東京の医療機関が非匿名の精子提供を募集するとあり、私自身の先祖代々の遺伝子のバトンを私でストップする罰の悪い気持ちを、まだ工夫できるかも知れないと思い、ただ45歳までの募集なので、年齢制限について医療機関にメールした。思えば結婚難だって、年齢制限で困難な面がある。適齢期はあるのも事実だが、限界にはまだなっていない場合も限界とされてしまう場合があるかも知れない。でも適齢期が一番適齢なのは当然だとも思うが。

＜5月8日＞

新聞を隅々見ていたのは良かったかも知れない。今回の東京の医療機関の担当の女性は自らがご主人の了解を得て、精子提供を受けて子供を持たれた経験者だと記事に書いてあったが、丁寧な返信を2度くれた。年齢制限のルールがあるので、すぐに決着は付かなったが、もし将来的に高齢者でも精子提供が出来るようになったなら連絡をくれ

るとのことで、私のほうも、積年思ってきた結婚難周辺の事々を殴り書きして訴えた。久しぶりにアクションを仕掛けたような気もする。望みを捨てなければ、可能性はまだやってくると信じてみたい。

＜5月9日＞

起床して着想が閃き、しつこいようだが、非匿名の精子提供を15日から開始するという医療機関の担当者にメールを重ねた。その着想は、精子提供するような男性は、社会的に優秀とされていたり、当然若さがあったり、妻帯者であったり、将来妻帯できる男性ではないか。すると配偶者からの子供と、精子提供した子供との異母兄弟姉妹間の結婚が生じるのではないか。異母兄弟の結婚は遺伝子が近い配偶者だと遺伝病の生じる可能性から結婚は禁じられているが、精子提供からそうしたことを減らすためには、結婚出来ず孤独死するような結婚難男性の精子提供ならばどうなのかという逆説のような事を提供したのだ。私自身の結婚難高齢化により、以前よりやる気は色々な面で減少してしまっているが、久しぶりに活動しているような気がした。他の面からも、高齢結婚難男性が救われる方法論、広げられれば女性も救われる方法論をもっと意識してインプット、アウトプットしなければいけないはずだったのだが、きっかけがないと行為できない。今回は新聞を隅々眺めていたことからの着想と実践だと思う。茨城新聞にもこの事を伝える営業をしてみようかなと思う。

＜6月13日＞

久しぶりにこのファイルを開くと、精子提供の話題は既に意識から遠のき、また無為の日々に陥る。これこそが現実。ドラマなどは面白いように出しているわけだ。現実を書いている。この結婚難状況では、昔のように純粋に恋に陥ってしまうようなエネルギーも生じない。なにしろ年齢という壁が抑制する。こうしてどれだけ書いても書いても、特定の相手の出現と、その相手への思いに陥ることの出来る純粋な精神こそが

この日記の解決方法なのだろう。とは、思うものの・・・。

＜8 月 1 日＞

締め切りの通知が届いたので久しぶりにワープロソフトを開けてみると、まるで忘れてしまっていたのだが、当初は精子提供について関心を持って書いていたのだった。

自分自身が先祖代々いつからかわからないほど繋げてきた遺伝子を終わらせてしまうのかと思うと辛いのだが、どれだけ頑張って婚活をしたことだろう。同時代の女性たちを恨みたくもなる。

マクロとミクロと言っていいのかわからないが、マクロが結婚難時代をどうすればいいのですかと問いかけていく方法をこうしてやっているわけだが、ミクロは特定の人、一人にアプローチするという、このほうが直接的であり、現実に実

現するということなのだろうが、今のところ、ミクロがさっぱりで、マクロは、とうとうなぜか急に増えてきて、

　YouTube 登録者がこの書いている時点で１６００人を超えた。１６００人の登録というのは決して少ない数字とは言えないと思う。結婚できる国に戻るよう引き続き頑ってパフォーマンスしていきたい。（結局内容は 6 月 13 日の状態のままだった）